

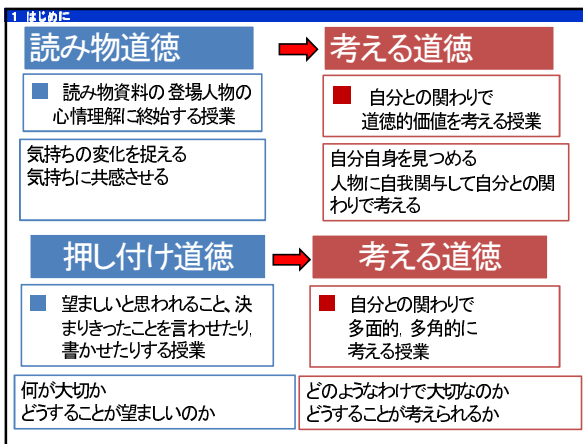
道徳的行為に関する 体験的な学習等を取り入れる工夫



広島県教育委員会豊かな心育成課

説明の流れ

- 1 はじめに
- 2 「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では
- 3 役割演技・劇化・動作化について
- 4 おわりに



考え、議論する道徳

考える
主体的に
自分との関わりで

多様な考え方、
感じ方と出会い
交流する

自分の考え方、感じ方を
明確にする

自分の考え方、感じ方を
より明確にする

子供が考える道徳授業



自分との
関わりで



主体的に

質の高い多様な指導方法

役割演技などの体験的な学習を通して、**実際の問題場面を実感を伴って理解すること**を通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際に体験してみること、また、**それに対して自分ならどう行動をとるかという問題解決のための役割演技**を通して、道徳的価値を実現するための実践的な資質・能力を養うことができる。

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(整理案)より抜粋

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編「第3節 指導の配慮事項」より

5 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

(5)児童生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、**道徳的行為に関する体験的な学習**等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。

その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。

また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

道徳科においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(より広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を行う。

道徳科の特質を生かすことに効果があると判断

多様な方法を活用して授業を構想することが大切。**道徳科の特質を生かした授業**を行う上で、各教科等と同様に**問題解決的な学習や体験的な学習等を有効に活用することが重要**である。

(小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編「第3節 指導の配慮事項」より)

(2)道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫

道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、
・実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど**具体的な道徳的行為をして**、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような**道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる**ことが考えられる。
・さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を**即興的に演技して考える役割演技**など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。

(小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編「第3節 指導の配慮事項」より)

(2)道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫

道徳的諸価値を理解するためには、例えば、
・**具体的な道徳的行為の場面を想起させ**体験させて、実際に行為することの難しさとその理由を考えさせ、弱さを克服することの大切さを自覚させたりすることが考えられる。
・また、道徳的行為の難しさについて語り合ったり、それとは逆に、生徒たちが見聞きしたすばらしい道徳的行為を出し合ったりして、考えを深めることも考えられる。
・さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を**即興的に演技して考える役割演技**など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。

(中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編「第3節 指導の配慮事項」より)

3 学習指導の多様な展開

(4)道徳科に生かす指導方法の工夫

オ 動作化、役割演技などの表現活動の工夫

児童が表現する活動の方法としては、発表したり書いたりすることのほかに、

児童に特定の役割を与えて**即興的に演技する役割演技の工夫**、

動きや言葉を模倣して理解を深める**動作化の工夫**、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで**自分の考えを表現する工夫**などがよく試みられる。

また、実際の場面の追体験や**道徳的行為などをしてみる**ことも方法として考えられる。

3 学習指導の多様な展開

(4)道徳科に生かす指導方法の工夫

オ 動作化、役割演技等の生徒の表現活動の工夫

生徒が表現する活動の方法としては、発表したり書いたりすることのほかに、

生徒に特定の役割を与えて**即興的に演技する役割演技の工夫**、

動きやせりふのまねをして理解を深める**動作化の工夫**、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで**自分の考えを表現する工夫**などがよく試みられる。

また、実際の場面の追体験、**実験や観察、調査等による表現物を伴った学習活動**も**実感的な理解につながる方法**である。

動作化や役割演技、コミュニケーションを深める活動などを取り入れるよさ

- 生徒の感性を磨いたり、臨場感を高めたりする。
- 表現活動を通して自分自身の問題として深く関わり、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深める。
- 主体的に道徳性を身に付ける。

- 他者の知らなかった一面を知ることができる。
- 多様な考え方があることを実感できる。
- 多様な考えに触れ、自分を見つめ直す機会が増える。
- 他者の考えをさらに聞きたくなる。

他者理解、自己理解が深まり、人間関係が深まる。

役割演技

・資料の中の特定場面や状況における登場人物を演じること。

・その人物が対人的に、あるいは対集団的にどのように関わっているのかを子供自らの経験などを基に認識し、問題解決に向かって考える活動を行うこと。

・子供が自分との関わりで道徳的価値についての問題を考え、話し合いなどにより多様な感じ方、考え方に合うことになる。

《道徳教育における役割演技の意義》

- (1)主体的に対応する力を身に付けさせる。
- (2)創造的に行動する力を身に付けさせる。
- (3)互いの立場になって行動する態度を育てる。
- (4)道徳的価値を体得し、実践の意欲を高める。
- (5)興味関心をもたせ、指導効果を高める。

《役割演技を取り入れる上での基本事項》

- (1)即興性を大切にすること
- (2)役割交代をすること
- (3)誰でも参加できる方法であること
- (4)中断法(適宜進行を止め、演者に助言したり、観衆に発言させたりする)を取り入れること

《役割演技を取り入れるための基本的な条件》

- (1)教師が役割演技を正しく理解していること
- (2)教師が児童を理解していること
- (3)教師と児童の信頼関係があること
- (4)年間を見通して位置付けること

《役割演技活用上の授業者の役割》

- (1)役割演技や話し合いがねらいとする道徳的価値から逸脱しないように配慮する。
- (2)演技や話し合いによって、特定の子供が誤解を受けないように配慮する。
- (3)演技者と観衆の子供とのパイプ役として助言や励ましなど円滑な進行を行う。
- (4)演技する子供と観衆の子供の双方を十分に観察するように配慮する。

《役割演技の具体的な進め方》

- ア ウォーミングアップ
- イ 条件設定
- ウ 役割や条件に即した即興的演技
- エ 演技の中断と話し合い
- オ 役割交代
- カ 演技の終了と話し合い

劇化

- ・資料の内容を劇の形に変えるもの。
 - ・資料のストーリーに沿って行われるものであり、特定の場面状況における登場人物になりきって自由に演じる役割演技とは異なる。
 - ・資料のストーリーに沿って劇を行うことで、ともすると資料の読み取りと同様の学習になるという懸念がある。
- どのように劇化を取り入れるのか、明確なねらいをもって活用することが大切。

【例】「はしの上のおおかみ」(「わたしたちの道徳 小学校1・2年」文部科学省)

○親切にすることのよさや温かさを価値理解として子供に考えさせる場合



くまがおおかみを抱いて渡す場面やおおかみが動物たちを抱いてわたる場面を劇化する

○意地悪を面白がってしまいがちな弱さを人間理解として子供に考えさせる場合



おおかみが動物たちに意地悪をしている場面を劇化する

動作化

- ・資料中の登場人物などの動作を模擬、模倣したり、それを反復したりすること。
- ・動作化を行うことで、子供が登場人物になりきって、登場人物の感じ方、考え方を自分との関わりで考えることねらう。

【例】「およげないりすさん」(「わたしたちの道徳 小学校1・2年」文部科学省)

○子供が友達の気持ちを考えずに行動してしまったときの思いをかめやあひる、はくちょうになりきって考えさせるために



「みなさん、かめたちはだめと言って島に泳いでいきましたね。だめと言った後、かめたちは泳ぎながら、どんなことを考えたかな？かめやあひる、はくちょうになって、泳ぐまねをしてみましょう。」と投げかけて、子供に泳ぐ動作を反復させる。

登場人物を身近に感じて親近感を持ち、その気持ちなどを自分との関わりで考えようとする慣えができる。

《劇化や動作化をする際の留意点》

- ・授業者が明確な意図をもって活用することが何よりも大切。
- ・演技や動作をさせる際にも、子供に演技や動作をさせる目的を明確に示すことが必要。
- ・子供が目的意識を感じなければ、せっかくの活動が単なる茶番劇になることも懸念される。

5. おわりに

これらの方法を活用する場合は、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、**授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要**である。ただし、道徳科の授業に体験的な学習を取り入れる際には、**単に活動を行って終わるのではなく、生徒が体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることが大切**である。体験的な学習を通して道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための資質・能力の育成に資するように十分に留意する必要がある。

(中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編「第3節 指導の配慮事項」より)

- 生徒が伸び伸びと表現できるよう配慮する。
- 日常生活の指導の中で表現活動に慣れさせること
- 自由に表現できる学級の雰囲気をつくること
- これらの活動が単に興味本位に流れたりしないで道徳科のねらいを達成することができるようにすること



活動を取り入れる目的やねらい達成の見通しをもち、場面設定をしっかりとしておくことなど事前の十分な準備と配慮が大切。

中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編「第4章 第2節 道徳科の指導」より

子供が考える道徳授業

自分との
関わりで

主体的に

道徳的行為に関する
体験的な学習等を取り入れる工夫

【参考文献】

- ・赤堀博行 (2013) 『道徳授業で大切なこと』 東洋館出版社
- ・林和子 (2016) 「道徳科の学習指導の多様な展開を構想する」『道徳と特別活動』2月号 ぶんけい
- ・文部科学省 『中学校 心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』
- ・文部科学省 (平成27年) 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- ・文部科学省 (平成27年) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』